

松尾 たくさんご質問いただいて、お答えしきれないので、思いつくところだけで恐縮ですが。

まず負担についてですが、先ほど内閣官房からご説明があった資料の7ページに負担みたいなものを書いてあります。詳しいことは、首相官邸のホームページからダウンロードいただくと、かなり詳しく書いてあります。

たとえば7ページの一番下を見ると、非常にわかりやすく、ガソリン1リットル当たり、いくらかの負担と書いてあります。選択肢 だと1リットル当たり30円ぐらい、選択肢 だと70円、選択肢 だと170円と書いてあります。これは非常にわかりやすいんじゃないかと思います。

ここでは象徴的にガソリンと言っていますが、日本国内のエネルギー全体の価格がこれぐらい上がる、と考えていただければ良いと思います。そうすると大体、リッター当たり30円というのは、それなりに努力しますということです。70円というと結構努力しないと行けないということがわかんと思います。リッター当たり170円上がるというのは、かなり捨て身になって努力しないとだめではないかと。そういうイメージでとらえていただくとわかりやすいと思います。

個人的には、選択肢 の場合には、先ほどのご説明の通り産業の活動量を減らすことになるわけですが、この場合、日本の産業が減少して、それが海外に流出してしまうということが、恐らく起きるんじゃないかと思います。日本の産業なんかどうなってもいいという意見を持つ人も、それはそれでいらっしゃるのかも知れませんが、いずれにせよ、この場合には日本の産業がかなり国内から消えてしまうのではないかと、ということは考えられます。

エネルギーに関してですが、皆さん、再生可能エネルギーについて非常にご関心があると思いますが、これも詳しい資料を見ていただくと書いてありますけれども、発電電力量のうち4%から5%程度を太陽光・風力などの再生可能エネルギーでまかなうというのが選択肢 です。選択肢 になると、それが10%ぐらいに上がります。

4%から10%というのはとても少ないと思われるかも知れませんが、実は再生可能エネルギーの中で、風力については、実は、設置できる場所が限られているという現状があります。従って、日本では風力発電を飛躍的に上げることが難しいということです。

ですので、5ページをご覧くださいますと、風力はなかなか難しいので、太陽光でどんどんやっっていこうと。当然風力も増やしますけれども、ここには書いてありません。太陽光で言

うと、それが のケースで 10 倍ぐらい、 のケースで 25 倍～40 倍ぐらいということです。

太陽光の問題は、非常にコストが高いということとして、いまは火力発電とか原子力発電でまかっていますけれども、それに比べて太陽光発電は非常にコストが高いんですね。今回の検討では、2020 年までということ、あと 10 年間しかありませんので、基本的には太陽光のコストは高いままだろう。2020 年以降にそれがもっと安くなってくれば、どんどん入ってくるかもしれないということになります。

従いまして、エネルギーという観点でいえば、再生可能はいま申し上げた程度ですが、その他に、先ほど秋元さんからもお話がありましたように、原子力というものをかなり想定しています。原子力は賛否いろいろあると思いますけれども、やはり CO2 削減という意味では、非常に効果がありますので、原子力をかなり想定しているというのが現状です。

政府のリーダーシップということですが、これは政府の中枢を占める方が、ここに 3 人いらっしゃいますので、ぜひよろしく願いしたいと思います。

「国民総幸福 (GNH)」みたいなものはどうなのかというご指摘は、まさにその通りだと思います。GDP だけで考えてはいけないというのは、その通りだと思いますが、われわれいま、CO2 ということを考えていまして、二酸化炭素の排出量は数字として、GDP によって決まるんですね。つまり、経済活動が大きくなれば、その分、排出量が大きくなるということです。従って、やはりこういう計算を行う際には、GDP をもとにして考えざるを得ないわけです。

ただ、もちろん、GDP で表されるもの以外の幸福も当然ありますので、そういったものも当然、別途考えないといけないとは思っています。

2050 年との関係ですが、先ほど言いましたように、太陽光発電 1 つ取ってみても、それが普及するに従って、どんどんコストが下がってくるわけです。従いまして、2020 年までは導入するのが難しくても、2050 年までなら、もっとどんどん入ってくることもできるんじゃないかということがあります。技術開発にしても、2020 年まででは開発されない技術が、2050 年になるとかなり入ってくる可能性はある。そういうことで、2020 年までこういうふうになっていくことができれば、2050 年は当然さらに加速的に下がるだろうと考えることはできると思います。

従いまして、われわれの計算では、基本的に選択肢 ぐらいをそのまま伸ばしていくと、2050 年に 60% から 70% 程度の削減ができるという結果になっています。 以上